



えだわんだより

令和6年 2月29日発行

横浜市立荏田東第一小学校

3月号

学校ホームページ



共に伸び、共に輝け、感謝・感動 しなやかえだわん



授業参観で生き生きと

天まで伸びる、竹のごとく

学校長 熊谷 潤平

久しぶりに、対面方式の学校教育報告会を2月22日に行うことができました。その際、皆さんに御協力いただいたアンケートの結果や本年度の学力・学習状況調査の結果も報告させていただきました。話の中で私は、

- ①この3年間で、全校的な学力が市平均と比べ、目に見えて向上してきていること
- ②昨年から客観的学力を伸ばした児童の割合が、市全体と比べ約15%も多いこと
- ③一方で、「学校が楽しい」「授業が分かる」児童の割合が停滞、または減少していること
- ④「学校は安心できる」「人の痛みや喜びに共感できる」等の項目が特に課題であることを、強調しました。

学力をはじめとした「見えやすい力」はもちろん伸ばしていきたい。でも、他者の痛みや喜びに共感できる心・感性も豊かにしていきたい。とはいえ、言うは易く、行うは難し。御家庭からの協力も頂きつつ、学校での安心を保障した上で、どうすれば授業がより分かるか、学校が楽しくなるか、子どもの反応・声に注視・傾聴し、「知・徳・体」を豊かにする授業・教育課程を目指したいと思えます。

先日のニュースで、能登半島地震の避難所になっている珠州市立正院小学校のお子さんたちが、地域の方たちを元気づけようとミニコンサートを企画したことを知りました。ひと月にも渡り準備したそうで、すばらしい歌声を避難所の方々にプレゼントしていました。映像には、涙を流しながら子どもたちの歌声を受け止めていた避難所の方々の姿がありました。でも、子どもたちもまた被災者なのです。苦しみを抱えているはずですが、このしなやかさ、たくましさ。そして豊かな感性。

このニュースを、どうやらえだわんの子どもたちも少なからず見たようです。と言いますのも、本年度最後の授業参観で、「ソーラン節」を合奏したある2年生の子が、リズムよく正しい音階で生き生きと楽器演奏をした後、こんな締めめの挨拶をしていたのです。

「今日はありがとうございました。もし災害があったら、私たちが演奏します！」
きっと、ニュースを見て、何か感じるどころがあったのでしょうか。そこにある共感、感動…。全体的な数値にはまだ表れていないかもしれないが、子どもたちには、音楽の技能も、豊かな感性も、ちゃんと育てている。うれしくなりました。「しなやかに、竹のように育っていつてね。」と心の中でつぶやきました。

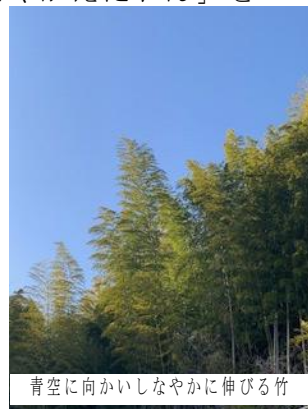
本校の校歌である「心にいつも緑の風を」は、木下龍太郎さんの作詞によるものです。木下さんは、この歌の2番に、「天まで伸びる竹のよに」という言葉を入れてくださいました。

そういえば、令和3年度までの学校教育目標もすてきな言葉からできていて、「ふれあい響き合い 学び合い 輝く たけのこキッズ」というものでした。校歌の歌詞を踏まえていることがうかがえます。令和4年度から「たけのこキッズ」の心は「しなやかえだわん」という現在の学校教育目標に継承されています。

しなやかでたくましい竹は、穏やかな環境だけで育ったものではないでしょう。熱い日差し、激しい雨、冷たい雪、荒れる風をも受けながら、「筍」から「竹」へと立派に育っていく。

えだわんの子どもたちは、日々、成長を見せてくれます。私たち教職員も、悔しい結果・率直な意見を受け止め、糧としながら、しなやかに成長していきたいと思えます。

地域の皆様、保護者の皆様、今年度もたくさんの応援をありがとうございました。令和6年度はすぐそこです。新年度もどうぞよろしく願いいたします。



青空に向かいしなやかに伸びる竹